

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の運営理念をつくり、サービスを提供するよう心がけている。また、理念に地域密着サービスとしての理念を盛り込んでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有出来るように玄関に理念を掲げており、施設長・管理者・職員で毎日頃から話し合う機会を設け、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営理念・基本理念ともに掲示して、家族や地域の方が訪れたときに、見ていただき、理解してもらえよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員、入居者ともに旧本宮町の方なので、顔見知りが多く気軽に訪問してくれる。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員が自治会活動に参加、地域行事やお祭り、運動会など学校行事にも出かけている。また、小・中学生の体験学習や訪問もあり、地域との交流の機会を多く持っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	キャラバンメイトへの登録、認知症サポーター養成講座の開催、体験学習受け入れなど、認知症についての理解を高齢者・地域住民・学生や生徒に深めてもらう取り組みをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自己評価・外部評価を実施する意義を理解し、評価での改善点については、職員全員で問題意識を持ち改善し、サービスの向上に繋がるようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政職員・民生委員・地域及び家族の代表の参加を得て2ヶ月に1回開催しており、様々な意見が出るがその意見をサービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外でも行政担当者とは新規利用者の情報や研修情報をもろうなど、相談やアドバイスをもろう機会もあり、連携が図れている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	諸制度について研修などを通じて学ぶ機会を設けて理解を深めるようにしている。	○	権利擁護諸制度の活用支援。(現在は、制度を活用している入居者はいないが必要な方への活用支援)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修などで高齢者虐待について学び、また事業所内で虐待が無いよう注意している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者・家族に十分説明を行い理解・納得してもらい同意を得ている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に相談・苦情窓口を明示し、説明して了承を得ている。また、玄関にも掲示して伝えている。相談や苦情があった場合は速やかに対応する。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>園便りを3ヶ月に1回、行事の様子や暮らしぶりを写真入りで発行している。職員の異動があった場合も紙面を通じて家族に報告している。また、毎月健康チェック表も送付、金銭管理については、領収書原本は毎月、収支報告書は3ヶ月に1回家族宛に送付し報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に相談・苦情窓口を明示し、説明して了承を得ている。また、玄関にも掲示して伝えている。相談や苦情があった場合は速やかに対応するよう努めている。また、運営推進会議の中で、家族参加の意見が出たが、実施すると家族同士の交流の機会となった。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>施設長・管理者と職員が意見交換しやすい関係が出来ている。また、ヒアリングや話し合いを実施して職員の考えや意見を反映させている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の生活の流れを支援するために考慮した勤務ローテーションを組んでいる。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者が馴染みの管理者や職員による支援を継続できるように異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。また、異動に際しても同敷地内の法人間での異動であるため、職員が時折ホームに来るなどの配慮によりダメージを防ぐ努力をしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症・介護技術・人権など研修に積極的に参加しており、その研修内容はフィードバックされ職員全員がレベルアップできるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入しており、情報交換を行うなどネットワークづくりができており、サービスの質の向上につなげている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスを軽減する方策として、職員相互の親睦を深めるため親睦会や忘年会を開催、また、悩み事など気軽に相談できるようヒアリングなどおこなっている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得・研修参加のための支援、職員健診・腰椎健診など職員の健康管理にも注意して、元気に向上心をもって働く事のできる職場環境の整備に努めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前、入居直後数度の本人へのアセスメントの実施することで、利用者本人をよく知る事を大切にしている。また、担当ケアマネージャー、サービス利用事業所などから情報を収集するようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の家族にもアセスメントを実施して、家族の不安に思っている事、望んでいる事を把握するようにしている。また、ケアマネージャーなどからも情報を収集するようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームへの入居が、必要としている支援かどうかを検討し対応するようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人や家族にホームを見学してもらい、その場の雰囲気に慣れてもらえるようにしている。また、入居後についても電話などで家族とのつながりは継続できるよう配慮し、安心・納得した上でサービス利用をすすめている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活歴を知る中で、その得意分野において力を発揮してもらっており、また職員が入居者から学ぶ機会もあり、喜怒哀楽をともにするなど、ひとつの大きな家族という意識を持って関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とともに本人を支えていくことについて相談しながら介護するようにしている。また、連絡を密にする事から家族とも喜怒哀楽をともにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるような雰囲気づくり、面会・外出・外泊などの家族の支援の重要性を説明している。また、外出・外泊の際には、日時など家族に協力している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の呼びかけ、人の集まる場(お祭り、行事など)への外出、お墓参り、馴染みの店の利用など、家族はもちろん親類・近所の人・友人など人の関係、お墓やお店など場所の関係も継続できるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の交流を大切にし、また職員は仲介役となって入居者同士の交流を支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後、他施設に移った利用者に面会に行ったり、また家族から相談があった場合は、相談にのるなどの支援をして入居していたときの関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりについて、食事やお茶の時間などゆったり過ごす場面において本人の希望や意向を聞きだす努力をしている。ケース記録には出来るだけ本人の発言を書き留めておくようにしており、その把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人、家族、近所の人、友人などから話を聞いて生活歴や暮らし方の把握に努めている。また、生活環境は実際にお宅を訪問して見させてもらっている。過去のサービス利用については、担当ケアマネジャーから話を聞き経過を把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの過ごし方や、心身状態、有する力を把握するために、職員全員が情報を収集して共有するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたってはセンター方式の一部を取り入れたアセスメントにより、本人・家族などの意向や希望を把握し、職員や必要な関係者の意見など反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一人ひとりのケース記録・健康チェック表などの記録に担当職員が毎月気付きを記入するようにしており、ケース会議において介護計画の見直しを検討している。また、状態の変化があった場合は、都度家族など関係者と話し合い計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・健康チェック表を個別に作成記入、業務日誌や申し送りノートも記入していて、ファイルは職員がいつでも目を通せる場所において情報を共有出来るようにしている。日々の記録は介護計画の見直しに生かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の協力を得られる利用者には定期的に、または盆・正月などに外泊支援を行っている。また、墓参りや見舞いなど特別な外出支援、医療機関の受診や入退院の送迎など移送サービスも行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、老人クラブなどの施設見学や交流会、消防署との防災訓練、保育園、小・中学校、大学の生徒・学生との体験学習、交流会など実施している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望で、併設のデイ・サービスの利用を支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は市町村合併以前から様々に連携していた、行政(保健福祉担当者)、社協、併設介護支援事業所との協働・連携が主となっているが、入居に際しての相談など地域包括支援センターとも協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関(かかりつけ医)の医師とは、入居前からかかりつけ医の方が多く、入居後かかりつけ医となった方、家族の方の理解も得ている。定期的に往診してもらっており、毎日の健康チェック表等も情報として、必要時医師に提供するなど連携を図り、適切な医療を受けられている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる事の無い配慮をしている。また、園便りについては、入居者の写真を掲載している為、配布は家族など必要最小限の関係者にとどめており、記録など個人情報の取り扱いについては、十分注意している。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>本人の希望が表せるように職員が働きかけをおこなったり、様々な場面で、自己決定が出来るよう働きかけ、また自己決定できる場面を提供して、本人が納得しながら生活できるように支援している。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>一人ひとりのペースを大切にし、職員も十分にゆとりを持って接している。外出や行事への参加なども、当日の本人の意向や体調などを確認して希望に沿った支援をしている。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>馴染みの理美容院を利用出来るように外出支援を行ったり、家族と一緒に出かけの事が出来るよう支援している。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>地元特産の馴染みの食材や料理、自家菜園で収穫した旬の野菜を取り入れて調理する機会が多く、季節感を味わうとともに昔を思い出して会話が楽しく交わされるようにしている。また、下ごしらえや配下膳後片付け等も手分けして一緒に行っている。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>本人の好みや、その時飲みたい食べたいものを楽しめるよう支援している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	パットの使用も必要最小限にとどめ、入居者の排泄のサインを汲み取り自然に声掛けして誘導しトイレで排泄するようにしている。また、職員のトイレも自由に使用できるようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	川の流れや木々の緑を眺めながら、くつろいでゆったりと温泉入浴が楽しむ事ができるよう配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者本人が休息したり眠れるよう状況に応じて職員が声を掛けたり、誘導したりするなど支援している。また、居室・廊下などに椅子やソファを設置しており、自由に休息が取れるようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴から、得意とする分野において活躍してもらえるよう配慮している。行事での挨拶、来訪者への接待や食事の後片付け、掃除、洗濯、菜園の手入れ等、それぞれに張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が自分で管理(小遣い)、困難な方は施設が管理していて、入居者の希望や力量に応じて支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設のデイサービスを利用している知人、友人との面会・散歩・おやつや買い物・ドライブ・園芸など、日常的に戸外に出かけられるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠足や花見、ドライブなどで普段行く事のできない所へ行く機会をつくり、家族の参加も受け入れている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親類などと、電話や手紙のやりとりができるようプライバシーに配慮しながら支援している。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族だけでなく誰でも訪問しやすく、また居心地よく過ごせる雰囲気作りを心がけている。面会時間を面会者に合わせたり、自由に自室で面談してもらっている。	
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設長をはじめ職員全員が身体拘束について理解しており、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が鍵を掛ける事の弊害を理解しており、午前7時30分頃から午後6時過ぎ迄、鍵をかけていない。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーに配慮しながら、安全に過ごせるよう支援している。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者個々の能力に応じた必要物品の保管・管理を行っている。また、危険を防ぐ取り組みをしている。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書やヒヤリハットを活用して入居者個々の起こりえる事故を把握し事故防止に取り組んでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者の急変時や事故発生時に応急手当や心肺蘇生などが行えるよう講習会に参加している。また、職員の目に付くところに応急手当マニュアルを掲示してある。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、法人全体で年2回避難訓練を行っている。夜間帯を想定しての訓練もあり、ホームとしての課題などについても具体的に話し合っている。管理者は地元の消防団に所属して活動しており、地域関係者にも協力を得られるよう働きかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者個々に現状または今後起こりえる可能性のあるリスクについて家族に報告説明して、その対応策について検討している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化や異変に気づいたときは、ケース記録や健康チェック表に前後の様子やバイタルなど書き記し、全ての職員が情報を共有出来るようにしてる。また、かかりつけ医にも速やかに連絡・相談し必要な場合は受診し、家族にも連絡・相談し情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員の目に付くところに、服薬一覧表を置いてあり、入居者がどのような薬をどれだけ飲んでいるか、また副作用についても理解して医師の指示通り服薬できるよう支援している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響など理解し便秘予防のための食事・おやつを提供している。また、水分をしっかり取ってもらい、運動への働きかけも行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝夕の歯磨きを励行して口腔清潔を保つようにしている。また、食後に口腔内に食べ残しのある方は、歯磨きやうがいをするなどして口腔清潔を保てるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の栄養士が作成したものを参考にしており、栄養のバランスは配慮できている。また、一人ひとりの食事量・水分摂取量は個々に記録しており、きざみ食・ミキサー食など形態なども工夫して十分に確保できるよう支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを作成し実行している。手指消毒薬を所々に設置、洗濯にはハイターを使用するなどしている。感染症に関する研修にも参加している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具などは清潔・衛生の保持に充分配慮している。食材も新鮮で安全なものの使用に努め、自家菜園で収穫した無農薬野菜、地元で取れた山菜や川魚なども食材として使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	広い駐車場を完備しており、玄関周りには花壇や畑があり框を残すなど一般家屋の造りも残している。また、足の不自由な方でも気軽に出入りできるようスロープや段差解消機を設置している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材を多く使った落ち着いた雰囲気での造りであり、天井が高く開放感があり、大きな窓から見える景色で居ながらにして季節感を味わう事ができる。随所にソファや椅子を置いており、思い思いに居心地よく過ごせる空間となっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昼の談話室、談話スペースには応接セット、廊下の空きスペースにも椅子やソファを置き入居者が思い思いに過ごせる場所」の工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや使い慣れた箆笥、簾の応接セットなどを本人や家族が自由にレイアウトできるようにしている。一人ひとりが居心地よく過ごせるよう配慮・工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は充分に行っており、臭気や空気のとどみが無いよう配慮している。また、室温は入居者に確認しながら温度調節をおこなっている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・廊下・トイレ・風呂場など必要な場所には手すりを設置し、風呂場タイルは滑り止め加工の施したものを使用するなどして安全に努めている。また、玄関には段差解消機を設置して自立支援をおこなっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日めくりカレンダー、時計を適所に設置し、日時がよくわかるように配慮したり、シミ等ができた場合はすぐ拭き取るなどして混乱や失敗を防ぐ工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関両脇には花壇や畑があり、外周も足の悪い入居者でも座り込むことなく園芸を楽しむ事ができるよう畑や花壇に利用している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームの自慢は、清流大塔川と緑豊かな山並みに囲まれ身近に四季を感じる事のできる自然環境と、窓の外に広がる景色を見ながらの温泉入浴です。また、職員・入居者共に全員が本宮町住民・出身であるという馴染みの関係を大切に、地域に密着したケアを展開している点です。ご家族の方、友人、近所の方など気軽に訪問していただいています。様々な地域行事やお祭り、併設の特養との合同遠足・盆踊り・運動会・クリスマス会などに参加したり、保育園、小・中学生、各種団体との交流会を開催しています。また、小・中学生、大学生、各種団体の施設見学、体験学習も積極的に受け入れており、認知症サポーター養成講座の開講など、認知症ケアの普及活動並びにグループホームの機能を地域に還元することにも、力を入れて取り組んでいます。